

# 中部山岳国立公園南部地域(さわんど温泉地区)における利用拠点マスタープラン策定に係る サウンディング調査 結果概要

## 1. 趣旨

環境省では、国立公園満喫プロジェクトのさらなる展開として、国立公園における美しい自然の中での感動体験を柱とした滞在型・高付加価値観光を推進するため、中部山岳国立公園南部地域など全国4箇所の国立公園で、「国立公園における滞在体験の魅力向上先端モデル事業」に取り組んでいます。

本事業では、国立公園の利用拠点に宿泊施設を誘致するなどして、民間活用による魅力向上を進めることとしています。中部山岳国立公園南部地域では、地方公共団体や地域関係者との意見交換等を重ねながら検討を進め、令和6年10月に「乗鞍岳・乗鞍高原・白骨温泉・さわんど温泉地区」が利用拠点に選定されました。

現在、地域関係者とともに、各地区で検討チームを立ち上げ、高付加価値な滞在体験の提供に向けた基本計画として、宿泊施設等の誘致など、民間事業者の参入も見据えた利用拠点マスタープランの検討を進めているところです。今後、事業化に向けて具体的に検討を進めていくためには、マスタープラン検討の段階から民間事業者等のノウハウ・協力が必要不可欠であると考えています。

そこで、さわんど温泉地区において、持続可能な観光地域づくりを通じた地域課題の解決を目指して、同地区の本質的な価値・魅力に基づく望ましい体験の提供に必要な機能・事業等について、滞在体験の魅力向上につながるアイデアやご提案を広くいただくことを目的として、民間事業者の皆様との対話(サウンディング調査)を実施しましたので、その結果の概要を公表します。

## 2. 調査概要

### (1)実施スケジュール

公示(実施要領の公表)	: 令和8年3月6日(金)
地域関係者との現地視察及び意見交換	: 令和8年4月2日(木)
サウンディング申込期間	: 令和8年3月6日(金)～4月3日(金)午後5時
サウンディングの実施	: 令和8年4月14日(火)、15日(水)

### (2)参加事業者(グループ)数

宿泊事業者	: 1 者
宿泊事業者以外	: 2 者
合計	: 3 者

### (3)サウンディングの項目

- ①さわんど温泉地区の利用の高付加価値化につながる、沢渡ナショナルパークゲートのゲート機能の強化、さわんどでの滞在をより充実させるためのサービス提供、滞在環境としての魅力向上のための社会基盤整備に向けた取組に関連する事業及びその他事業(宿泊事業、ガイド・アクティビティ提供、飲食サービス、広報・情報発信、物販等の事業)に関するアイデア、意見・提案
- ②その他、さわんど温泉地区の利用の高付加価値化に関するアイデア、意見・提案

### 3. 参加事業者との対話で得られた主な意見・提案

#### (1) さわんど温泉地区の利用の高付加価値化につながるアイデア、意見・提案

##### ● 沢渡ナショナルパークゲート(以下、NPG)周辺への機能集約

- ・さわんど温泉地区のマスタープラン素案に示されたコンセプトには共感する。その上で、さわんどでの滞在をより充実させるためのサービス提供、滞在環境としての魅力向上のための社会基盤整備に向けた取組に関しては、NPG周辺にすべての機能を集約した方が経済合理性が高いと考えられる。その方が、当地区に投資をしようとする事業者が生まれやすいのではないかと考えられる。これにより、ステーションホテルの整備も可能性が出てくる。
- ・NPGの情報発信機能の強化や駐車場の役割分担を円滑に行うためには、NPG周辺における機能集約が効果的である。
- ・中・長期での取組の中で、ステーションホテルの整備が挙げられているが、実施手法によっては事業として成立する可能性があると考えられる。その場合、温泉施設の整備は必要である。さわんど温泉地区には湯の郷公園があるため、温浴施設も十分に可能であり、大きな魅力になるものと考えられる。
- ・NPGの情報発信強化は重要と考える。そのため、地域内(駐車場間)を周遊する循環型バスを運行してはどうか。

##### ● マスタープラン素案の取組案について

- ・マスタープラン素案に挙げられている取組は概ね実施が可能であり、特に体験ツアーのコンテンツづくりには検討の余地が大きい。
- ・さわんど温泉地区から上高地へ向けて、自社の技術を活用した体験ツアーの内容検討に貢献できると考える。体験ツアーに加え、NPGにおける情報発信に資する展示コンテンツとしても提供できると考えている。
- ・自社の技術を活用し、さわんど温泉地区ならではのグッズ作成に協力可能である。

##### ● グレンパークさわんどの位置づけ、機能

- ・グレンパークさわんどの2階を登山者向けの簡易な宿泊スペースとして活用することは、事業性があると考えられる。
- ・グレンパークさわんどの利点として、冬季にも営業している点が挙げられる。NPGが閉鎖する冬季には、宿泊機能に加え、冬季上高地入山者向けの情報発信施設としての機能を持たせることも考えられる。なお、NPGが通年開業している場合は、こうした情報発信機能はNPGが担うことが最も望ましい。

##### ● さわんど温泉地区の位置づけ

- ・マスタープラン素案に示された、コンセプトの実現のためには、さわんど温泉地区も上高地の一部であるという位置づけが重要ではないかと考えられる。

#### (2) その他、さわんど温泉地区の利用の高付加価値化に関するアイデア、意見・提案

- ・今後、さわんど温泉地区がより活気づくかどうかは、中部縦貫自動車道のインターチェンジの配置に大き

く影響を受けるものと考えられるため、情報収集が重要である。

- ・さわんど温泉地区のマスタープラン素案が、できることを積み上げた結果であることは理解した。一方で、コンセプトに基づき、地域としてここまで検討しているという内容をマスタープランに盛り込むことも重要である。
- ・さわんど温泉地区の整備は地元資本で取り組みを進めていくべきであると考えているが、仮に大きく方向転換を図る場合には、地元以外の外部資本の導入についても十分に検討の余地がある。

#### 4. 今後の予定

本地域では、地域関係者ととも各地区で検討チームを立ち上げ、高付加価値な滞在体験の提供に向けた基本計画として、宿泊施設等の誘致など、民間事業者の参入も見据えた利用拠点マスタープランの検討を進めています。

今後は、さわんど温泉地区の利用拠点マスタープランの完成に向けて、今回いただいた提案・アイデア等を参考に、引き続き検討を進める予定です。

マスタープランの策定後は、事業化の検討段階へ移行する予定です。

また、事業化の検討段階においても、事業者対話を継続的に実施する予定です。